

J A 御中
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 8

《トビイロウンカ対策について》

本年は、トビイロウンカの発生量が平年に比べて多く、8月2日付けで福岡県農林業総合試験場（福岡県病害虫防除所）から注意報が発表されました。

ほ場での発生状況をできるだけ広範囲に調査し、飛来時期と発生量の把握を行うとともに、適期防除を徹底して下さい。

○県内の定点ほ場での発生状況（7月5半旬）

	本年	平年	前年
10株当たり払い落とし虫数（頭）	0.5	0.3	0.0
発生ほ場率（％）	23.9	13.4	0.0

- ・ 10株当たり払い落とし虫数、発生ほ場率は平年および前年より多い。
- ・ トビイロウンカの雌成虫が確認されたほ場では、増殖力が高い短翅型率が100％であった。

〈適期防除の徹底〉

- ・ 本県では6月30日から7月22日にかけて断続的な飛来が確認されており、ほ場によって生育ステージに差があることが予想されます。ほ場をよく巡回し、要防除水準を超えたほ場では、早急に防除を実施しましょう。
- ・ 大きく3期の飛来が認められており、各飛来波の防除適期（第2世代若・中齢幼虫期）は、6月30日の飛来で8月17日～8月21日頃、7月12日の飛来で8月27日～9月2日頃、7月22日の飛来で9月4日～9月10日頃と考えられます（詳細は、福岡県病害虫防除所HPの発生予想パターン図を参照）。

【要防除水準】トビイロウンカ：中老齢幼虫の合計数

- ・ 飛来後第2世代：100頭/100株（8月中～下旬頃）
- ・ 飛来後第3世代：1,000頭/100株（9月）

〈その他〉

- ・ 防除にあつては、ほ場を湛水状態にして、薬剤が株元まで届くように規定量を散布しましょう。
- ・ 無人ヘリコプターによる防除を、気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によっては稲の株元に到達する前に気化し、防除効果が著しく低下する場合があるので、気温が高くなる前の早朝に実施しましょう。

薬剤防除にあたっては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を確認し、適切な薬剤散布を心がけましょう。

以上